

船井情報科学振興財団

報告書

織井理咲

University of Washington

Paul G. Allen School of Computer Science & Engineering

2023 年 12 月

University of Washington Paul G. Allen School of Computer Science & Engineering の博士課程の 3 年目が始まりました。

#### I. 論文の執筆とリビジョン

2022 年 9 月にマラウイ共和国の HIV クリニックでのフィールドワークから得た結果に基づいた論文を 3 つ執筆・提出することができました。

8 月末に CHI (HCI の分野の国際的なトップカンファレンス) に論文を提出しました。論文内容はパソコンやタブレットを活用したヘルスケアツールに対するエイズ患者の観点です。提出締め切りは 9 月末でしたが、9 月は忙しくなるとわかっていたので一ヶ月前に論文を提出することにしました。論文の執筆に向けて、毎週朝 5 時にマラウイの研究チームとミーティングを実施し、データの確認と論文の執筆方法を話し合いました。フィールドワークから一年経ちましたがこのような形で現地の人と関係を維持することができました。第一回の査読では評価の高いレビューを受け、第二回の査読に向けて 12 月中旬に修正版を提出しました。

12月上旬に PLOS ONE（科学と医療分野の論文が掲載されるジャーナル）に論文を提出しました。医療分野の論文を書くのが初めてで、コンピューターサイエンスの論文の書き方と違うことが多かったですが、Global Health の教授に執筆を指導していただき、無事年内に提出することができました。Global Health の論文は HCI の論文よりもダイレクトに書くスタイルのものが多く、「結果は A,B,C でヘルスケアをより良くするためには X,Y,Z が必要だ」のように実用的なネクストステップを重視した論文を書きました。

本年1月に提出した論文が CSCW（コミュニティによる協調作業とソーシャルコンピューティングを対象とする HCI の学会）に2回の査読を経てアクセプトされました。2024年10月のコスタリカでの学会で研究を発表する予定です。

博士課程の1年目と2年目は論文を出すペースが遅く、不満を感じていましたが、3年目になって一気に3つの論文を提出することができました。全て2週間のフィールドワークに基づいて書けた論文なので、フィールドワークの機会をいただけたことと現地の研究チームに大変感謝しています。このプロジェクトに参加できたことで今後もこのような仕事を続けていこうと思える分野に出会うことができました。

## II. 来学期に向けて

来学期は初めて TA（teaching assistantship）をすることになりました。TA する授業は学部生対象の HCI の授業です。TA を機に今後の進路について考えていこうと思います。

同時に Global Health の授業（Maternal and Child Health in Low and Middle Income Countries）を受けることにしました。興味ある分野の知識を深めながら医療分野でコミュニティを広げられる機会になると考えます。

秋学期に Global Health の研究者とともに新しい研究プロジェクトに参加しました。ケニアの若者が避妊法の基礎知識を学び、自分のニーズに合う避妊法を選ぶこと促すモバイルアプリの開発に取り組んでいます。秋学期はアプリのブレインストーミングをして開発の計画を立て、来学期からアプリの開発を始める予定です。秋学期の終わりにアプリの開発に加わる学部生を募集し、来学期から学部生5人をメンタリングすることにな

りました。2024年の3月末にケニアで現地の人とフィードバックワークショップを開く予定なので、それまでに機能するアプリを準備する必要があります。このワークショップに参加し、現地の人々がどのようにアプリに接するのか、どのような改善が必要なのかを理解する機会にしたいと期待しています。

### III. その他の活動

8月末にフィリピンでのボランティア活動に参加しました。2015年から日本のNPO団体「パラサイヨ」のメンバーとしてフィリピンの児童養護施設の支援を続けてきましたが、毎年夏に現地訪問をし、子どもたちと児童養護施設のスタッフを再会していましたが、2020年-2022年は現地訪問が中止になってしまいました。4年越しにフィリピンに行き、子どもたちの成長した姿を見ることができました。とても感動的な再会を経験しました。この団体に関わったことも今の研究テーマと関心に直接つながっていて、現地を訪問することで改めて自分の bigger vision を確信することができました。



フィリピンの児童養護施設を訪問したときに撮った集合写真

### IV. 最後に

2年間船井財団にご支援をいただき、深く感謝しています。博士課程3年目になり、研究テーマや関心を今まで以上に具体化することができました。今後も年末の交流会で奨学生と卒業生に久しぶりにお会いできるのを楽しみにしています。